

# グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第96号 2023年3月29日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション  
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

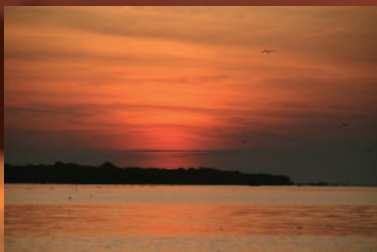
## 日の昇る国、日本に集まる霊的注目

1月23日から2月2日にかけて、カンボジアとマレーシアを訪問しました。カンボジア滞在中に、メコン川の日の出を見るために、朝早く起きて出かけました。暗闇の中に少しずつオレンジ色の光が現れてきました。まだ太陽は見えていません。次第に逆三角形の光が見えてきました。やがて小さな光が見え、太陽の円形が見えました。太陽は段々はっきりと、大きくなって行きました。

現在の日本の霊的な状態は、決して良い状況を示していません。絶望的、真っ暗であるとも言えるかもしれません。しかしイエス様の憐みは、この暗闇に注がれていると思います。

今回マレーシア・クアラルンプールのフルゴスペル・タバナクル教会から日本について語って欲しいとの要請をいただきました。

吉田 隆



### 目次

日の昇る国、日本に集まる霊的注目 吉田 隆	1-3
Hineni 摂理・ソリス	4
吉田恵利子のカンボジア訪問記 吉田恵利子	5
感謝とご報告・祈りの課題	6



## カンボジアからマレーシアへ

1月24日にカンボジアに入り、しばしば日本を訪問してくださっているスタンレー・ジェラード牧師が創設した子どもの施設・MIKIホームの訪問やスラム街の開拓教会の献堂式などに出席しました。その後、マレーシアの首都クアラルンプールに入りました。

クアラルンプールでは、マレーシア福音同盟の会長を務めているユー・ホン・セン牧師からの招きと要請により、フルゴスペル・タバナクルにて「日本のリバイバル」に特化したメッセージをさせていただきました。今、世界の“キリスト教世界”が日本で起ころうとしているリバイバルに目を注いでいると言っても過言ではありません。今回は、この教会で語らせていただいたメッセージの要約をお伝えしたいと思います。

## 日本、そこは宣教師の墓場

日本は、宣教師たちが長く働いても実を見ることができない場所であり、宣教師たちの墓場と呼ばれてきました。実際、プロテスタントとカトリックとを合わせてもクリスチャンの数は約百万人であり、全日本人のおよそ0.8%です。その数のピークは2011年でした。8000あると言われるプロテスタント教会のうち、1000教会からは早晚牧師がいなくなるであろうと言われています。そして信徒たちも高齢化しており、ほとんどの教会から若者たちの数がいよいよ減少しています。日本のキリスト教界には希望がないかのよう

## Country of Rising Son

日本という国名は、「日の昇る国」という意味であ

ると言われます。これを英語で言うと“Country of rising sun”と言いますが、神の御子が立ち上がる“Rising Son”と全く同じ発音になります。ですから“日の昇る国・日本”は“御子イエスが立ち上がる国”となることを期待しているのです。

では、日本のリバイバルの肯定的な側面をどこに見出すことができるでしょうか。

### ① イエス様は収穫を見ていらっしやる

「イエスは弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。』」（マタイ9：37～38）

### ② 日本のクリスチャン人口は6%

統計にかけてはプロフェッショナルな米国の調査会社であるギャラップが、2006年に行った日本のクリスチャン人口に関する調査では、クリスチャン人口は全人口の6%という驚くべき数字が発表されました。加えて、自分は宗教を持っていると答えた30%の成人のうち、75%が仏教徒、19%が神道、そして12%がクリスチャンであると答えたのです。しばしば語られる「1%以下」という日本のクリスチャン人口は、教会に出席している人口であると考えられます。

### ③ 世界に広がる日本に対する執り成しの祈り

かつて無かったほど顕著に、神は世界各地の「執り成し手」と呼ばれるクリスチャンたちに、日本の救霊のために祈るように呼びかけており、クリスチャンたちが応答しています。



#### ④ 神は再び宣教師たちを召して、日本に送ろうとしている

第二次世界大戦に敗戦し希望を失った日本人の人々に福音の光を与えるために、神様は西欧の宣教師たちを送ってくださいました。特に1949年に中国が共産化し、中国から追い出された宣教師たちの中の一部の方々は、日本に召されてやって来ました。その結果、戦後の日本に多くの教会が開拓されました。

その後、日本経済が発展し日本円の価値が急騰したことにより、他方では救われる魂が少ないという宣教師たちにとっては住みにくい国となったのです。その結果、日本を宣教の対象としていた多くの宣教団体が、日本に宣教師を送ることを止める決定をしました。

しかし21世紀に入って20余年が経過した今日、日本の経済が発展しなくなり、同時に日本円の価値が下落しました。宣教師を送りやすくなって来たのです。さらに、日本人は未伝部族としては、世界第二位に人口が多い、という統計が発表されています。こうした社会的、周辺的な要因よりも大切なのが、神が「日本へ行きなさい！」とお召しくださり、応答しようとしている宣教師が増えているという霊的な要因があります。

しかも、今から70年前は、主に西欧のいわゆるキリスト教国と呼ばれていた国々から宣教師が送られて来ましたが、今は、アジア、アフリカ、アメリカ、欧州、オセアニア、南アメリカと様々な国から神の召しに応答する人々が興されているのです。

#### ⑤ 神は預言者たちを通して日本のリバイバルと将来を告げている

複数のいわゆる“預言者”と呼ばれている人たちが、日本にリバイバルが来ることについて語っています。その中のお一人、2018年2月に日本に遣わされ、数百人の牧師たちを前に語ったシンガポールの故リック・シーワード師はこのように語りました。「神は私に示された。何千もの日本人が教会を建て上げるために出て行き、その教会がまた教会を、またそれらの教会がさらに多くの教会を建て上げる日が来ると。私はこれが神の今の召しであると信じる。」

これは単に日本の教会が祝福される、多くの魂が救われる、という以上に重要な将来に関して語っています。

#### ⑥ 日本が政治的、軍事的に危機の只中に置かれている状況

ウクライナに侵攻するロシアとプーチン、台湾や香港に圧力かける中国と習近平、ミサイルを発射している北朝鮮と金正恩。これら3国には共通点があります。それは共産主義的な政治形態と、国を束ねる一人のリーダーに権力が集中しているという点です。独裁主義者と言っても過言ではないほどです。そして、これら恐ろしい3国はいずれも日本の隣国なのです。いつ戦争が起きても不思議ではない状況の中で、私たちが救うことができるお方はイエス様だけです。十字架で勝利をお取りになったイエス様は、絶望的な状況から日本をお救いになることができます。

あらゆる否定的な要素に取り囲まれている状況の中にありながら、それでも日本にリバイバルが来ると信じるのです。太陽が徐々に上がるように、イエス様が立ち上がってくださるので、日本には希望があります。



十代の頃、将来進むべき道を祈りつつ求めいていた時に、ある集会のメッセージ中に開いた聖書箇所が強く心に残りました。

イザヤ書6：8「私は、『だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう』と言っておられる主の声を聞いたので、言った。『ここに、私がおります。私を遣わしてください。』」

「他に誰一人行かなかったとしても、主に従う。」「どんなに実現困難に見えるミッションだとしても、主がおっしゃったのなら成し遂げられる。」「ただ主のために用いられたい。」そのような強い意思と主への情熱がこの聖書箇所から伝わり、いつか私もイザヤのように主の招きに応えたいと思ったのを覚えています。

時を経て、アメリカの聖書学校で出会った夫と結婚し、スイスのインターナショナル教会に仕えている中で、2018年に教会の兄弟姉妹と共にイスラエルを訪問する恵みにあずかりました。「シオンの友」という博物館を訪れた時のことですが、そこで上映されていた動画を見て感銘を受けたのです。その動画は、アブラハムやモーセなど、歴史を動かしてきた聖書の偉人たちが、神様からたとえどんなに信じ難い使命を与えられたとしても、ヘブル語で「Hineni (ヒネニ)」と応えた、という内容のものでした。この“ヒネニ”は、日本語に訳すと「私がここにおります」となります。しかし、それは単に「私がここにいる」という事実を

提示するだけの言葉ではないそうです。すべての事実が明かされていなくても、「私は準備ができています」また、「私に求められていることに必要な細心の注意を払っている」などの意味があり、どんな展開が待っているとしても、それを受け入れて応答する準備ができていたことを示すそうです。どんな犠牲を払ってでも従う固い決意が込められた勇敢な言葉なのです。物事を簡単に諦めたり、忍耐力が続かない風潮が強くなってきている時代に、「ヒネニ」という深い決意を兼ね合わせた応答をすることはより困難になってきています。

イスラエル訪問から4年の月日が流れ、私は2022年5月9日に女の子を出産しました。名前はヒネニ・真結実です。世の中は、どんどん不義や不道徳が増えて暗くなってきています。このような時代にこそ、神様が「だれを遣わそう。だれがわれわれのために行くだろう」とお尋ねになった時に、「主よ、私がここにおります。私を遣わしてください。」と名乗り出る者に育って欲しいという願いが込められています。

真結実という日本語名も、夫ブライアン「女の子には可愛い響きの名前を付けたい」という願いのもと、“真理は実を結ぶ”という意味をもった漢字を選びました。世界情勢も揺れ動き、人々の感情も安定しにくい世の中ですが、神様の真理は堅く立ち、動かされることがありません。この暗い世界に、神様の真理が輝いて実を結ぶことを祈っています。



カンボジアに向かって飛び立ったのは、日本では10年ぶりの大雪で交通が麻痺し、飛行機も欠航となる半日前のことでした。いつも皆様のお祈りに支えて頂き、主の守りのうちにこの働きをさせて頂けることを本当に感謝致します。

日本から飛行機を乗り継ぎ、気温30度の蒸し暑いカンボジアに到着。その後陸路車で6時間、シートベルトも壊れた車でガタガタ道を猛スピードで走り続けました。「主よ、どうぞお守りください!」と必死に祈りました。そしてシエムリアップにたどり着いたのは真夜中でした。

現地ではトゥクトゥクというバイクの後ろに4人が乗れる座席が取り付けられているタクシー代わりの簡素な乗り物で、土けむりを巻き上げ、すごいスピードで走ります。アジアの大きさと言われるトンレサップ湖に流れ込む茶色く濁ったメコン川をボートで走る、スリルに満ち溢れた旅の始まりです。

この度の訪問は、主に「ミキホーム」という恵まれない家庭の子どもたちの家と、極貧地区の新しい教会の献堂式に出席するためでした。

ミキホームは私たちと長年宣教のために働いているスタンレー牧師が、11年前に始めた「子どもの家」です。少人数で、愛に溢れた家庭環境、食事、教育、医療、聖書の教えを通じて、福音を伝えることを目指しています。

現在11人の子どもたちが、ここに生活しています。皆とても良い子どもたちに育っています。最初に入寮した少年ソクリー君は、医者になることを目指しています。

ここで日本の折り紙を教えたり、「主はすばらしい」の賛美を日本語で教えたりして、ジェスチャーと一緒に賛美してもらいました。

コロナ禍で日本も世界中も困難な時を過ごしていま



折り紙を折るミキホームの子どもたち

す。カンボジアのミキホームも個人や教会からのサポートが打ち切れ、あらゆる面で縮小せざるを得なくなり、新しい場所へ移転してきたところでした。そのような大変な状況の中ですが、ミキホームの子どもたちの教育が続けられるように祈っています。

シエムリアップのスラム街に住む1人の女性がイエスを信じて、伝道し、短い間に15家族がイエスを信じました。ミキホームの寮長をしていたユース牧師がこの新しい教会を牧会し、教会堂が与えられました。献堂式では、主人がメッセージをし、2人で賛美をさせていただきました。



「主はすばらしい」を英語と日本語で賛美する子どもたち



## 吉田恵利子絵画個展 ～「風のしらべ vol.X (10)」～

2023年5月23日(火)～28日(日) 午前11時～午後6時

(最終日は午後5時迄)

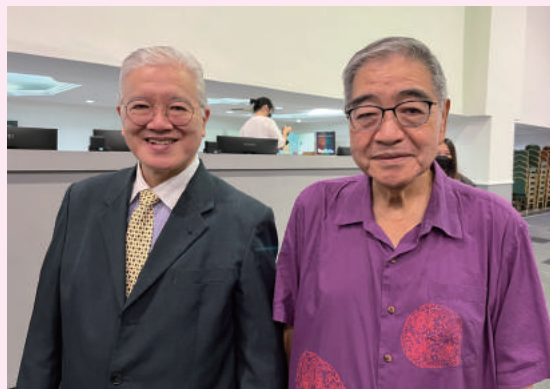
ギャリエ・ヤマシタ1号館 (京都市役所横寺町通り御池を下がる)

〒604-8081 京都市中京区天性寺前町534-2 Tel: 075-231-6505

## 《ちょっと嬉しい出来事》

今回マレーシアのフルゴスペル・タバナクル（FGT）教会を訪問した記事を書きましたが、2019年12月に訪問した時に、日本人の井上さんが礼拝に出席していらっしや、紹介をいただきました。その時はまだイエス様を信じていらっしやいませんでしたが、今回の訪問で再会し、昨年12月にFGTで、水のバプテスマをお受けになったことをお聞きしました。

コロナの時期にご病気もあり、一時日本に帰国していらっしやったそうですが、大和カルバ



リチャペルに出席なさっていたそうです。

今回のFGT訪問の際には、他にも日本人の方や、日本に宣教に行っていた宣教師の方とお会いすることができました。ハレルヤ！

## 感謝とご報告

- 2022年11月19日(土)から12月8日(土)まで、滋賀県大津市坂本にあるギャラリー楽心庵で、吉田恵利子師の第三回クリスマス絵画個展が開催されました。それに伴い、6回のクリスマス・コンサートがウクライナ支援のチャリティーを目的に行われました。コンサートでは約100人の出席者が与えられましたことを感謝します。
- 昨年11月末から、滋賀県、愛知県、三重県、京都府の諸教会において行われた新しい方々をお迎えしての伝道を目的としたクリスマス礼拝およびコンサートは、祝福されたことを感謝します。
- 前号(95号)では、2023年1月末から2月初めに吉田隆・恵利子宣教師がバングラデシュに訪問予定と課題を上げさせていただきましたが、バングラデシュの政治的な事情により延期させていただき、カンボジアとマレーシアに訪問させていただきました。(報告内容は本号に掲載されています。)
- 吉田隆宣教師と三男の成就兄は、3月11日(土)から23日(木)までバングラデシュで奉仕をさせていただきました。報告は次号でさせていただきます。

## 祈りの課題 (以下の祈禱課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- イースター・コンサートが奈良県の桜井市(4月7日)と宇陀市(4月8日)のショッピングモールで開催され、吉田隆・恵利子宣教師が奉仕します。福音を聞いたことのない方々に、イエス様の受難と復活の福音が伝えられますように。
- 次男の宣教兄は、4月からKBI関西聖書学院の3週間コースに出席します。
- 三男の成就兄は、4月からKBI関西聖書学院の3年生(最終学年)に学びます。
- 吉田恵利子宣教師の個展『風のしらべ Vol.X』が5月23日(火)から28日(日)まで京都市役所近くにあるギャリエ・ヤマシタ1号館で開催されます。
- 吉田隆・恵利子宣教師は、6月から欧州の働きに出かける予定です。健康が守られますように。
- 吉田ファミリーが霊的な戦いから守られ、病気や事故から守られますように。霊的な攻撃から守られますように。それぞれの健康が支えられますように。